

本時のねらい

- ・指事文字の成り立ちについて調べることで、漢字の成り立ちに興味を持つ。
- ・教員とコミュニケーションを図ることで、語彙や文法体系の習得に努め、自発的な発声、発語を促す。

本時における 1 人 1 台端末の活用方法とそのねらい

インターネットを用いて調べることで、集中して興味と関心を持ちながら課題に取り組む。
また、インターネット上で調べることにより、多くの指事文字があることを知る。

活用した ICT 機器・デジタル教材・コンテンツ等

- ・ Chromebook ・yahoo キッズ
- ・ 指事文字—漢字辞典（ネット） ・象形文字プリント（ネット）

本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT 活用のポイント・工夫
導入 (10 分)	<ul style="list-style-type: none"> ・前時に学習した象形文字を確認する。 ・象形文字プリントに取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・検索サイトで象形文字を検索し、前時の振り返りを行う。
展開 (30 分)	<ul style="list-style-type: none"> ・象形文字から「点」や「線」を加えると指事文字になることを説明、確認し、指事文字について知る。 ・象形文字の「木」に線を記号として付け加えた字について調べる。 ・インターネット上の漢字辞典でいろいろな指事文字（三、七、中）などの成り立ちを調べ、教員に成り立ちについて説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・検索サイトで指事文字の成り立ちを検索することで、より多くの指事文字の資料を見ることができ、さまざまな指事文字を一覧から容易に調べられる。
まとめ (5 分)	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の振り返りをする。 ・今日の学習で分かったこと、できたこと、次の学習につなげることなどを教員と共有する。 	

1 人 1 台端末を活用した活動の様子



写真 1 : 前時の振り返りとして象形文字プリントに取り組んでいる場面



写真 2 : 「本」、「末」をインターネットで調べている場面



写真 3 : いろいろな指事文字の成り立ちを調べている場面

児童の反応や変容

象形文字の木に線を記号として加えた指事文字について、「本」と「末」の成り立ちの違いが分かり驚いていた。また、インターネット上で検索することで、容易に調べることができ、教員とコミュニケーションをとりながら学習を進めた。委員会活動でポスター制作に取り組んだ児童は、「木は象形文字、本は指事文字」と言いながら楽しそうにかいていた。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

インターネットで検索した象形文字プリントに取り組んだことで、知らなかったことに興味を持った様子だった。また、一人ひとりタブレット PC を使うことで、検索の方法などに戸惑っている児童に対する支援がすぐできる。自分が検索した指事文字の成り立ちについて、教員にわかりやすく伝えようとすることで、自発的な発話にもつながった。